

●ISU 通知 1252 (2004.02.23)

新ジャッジングシステム・審判評価

2003-04 シーズンに新ジャッジングシステムの下で行われた競技会におけるジャッジ評価の手順は、ISU 通知 1238 に概要が述べられている。

理事会は ISU 通知 1238 の B2・e 項、f 項に関する決定を行った。

審判評価委員会(OAC)

2003-04 シーズンについて、理事会は ISU 通知 1238 の B2・a 項に従って次の者を任命し、審判評価委員会(OAC、先の通知における JAC)を構成する。

Rita Zonnekeyn BEL フィギュアスケート
Pekka Leskinen FIN フィギュアスケート
Robert Horen USA アイスダンス
Roland Wehinger SUI アイスダンス

潜在的な異常を判別するための数学的基準

ISU 通知 1238 の B2・f 項に従い、後にある潜在的な異常を判別するための特別な数学的基準が理事会によって承認された。OAC はこれに従う。

(a)要素・区分の採点(ジャッジの GOE)

- i. 演じられた各要素・区分(コンパルソリーダンスの1部分)について、それぞれの演技の質(GOE)の中間平均をコンピューターで計算する。そこでは審判団すべてのジャッジの採点を用いる。ジャッジの数が8人以上の場合は最高最低2つずつ取り除く。ジャッジの数が8人未満の場合は最高最低1つずつ取り除く。要素の基礎点は考えない。ジャッジ評価のために計算された中間平均値と、競技会の結果に使われた中間平均値とは同一ではない。
- ii. 各ジャッジについて全要素の偏差をコンピューターで計算する。1つの要素におけるジャッジの偏差は、入力したGOEとGOEの中間平均との差の絶対値(すなわち正の値)である。全要素の合計偏差は個々の要素の偏差を加算する。

	GOE の 中間平均	ジャッジ A の GOE	絶対偏差
要素 1	1.2	1	0.2
要素 2	-1.4	-2	0.6
要素 3	0.0	-1	1.0

要素 4	0.8	1	0.2
要素 5	-1.8	0	1.8
要素 6	0.2	2	1.8
要素 7	2.2	1	1.2
要素 8	1.4	0	1.4
絶対偏差の合計			8.2
絶対偏差の平均			1.03

- iii. 個々のジャッジの前には、一般的に許容し得る偏差の値を表した「扉」がある。
- iv. この「扉」は演じられた要素の数による。例えばショートプログラムで演じられるのは 8 つの必須要素である。各ジャッジは自らの判定において、要素 1 つにつき平均で 1 段階のズレ、ショートプログラムなら合計で 8 段階(合計偏差として最大 8.0)は許される。上の例は、異常の可能性を示している。
- v. 同じ原理がコンパルソリーダンス、オリジナルダンスに当てはまる。演じられ、認められた要素の数だけのズレ(合計偏差)が基本的に許容される。
- vi. 同じ原理がフリースケーティング、フリーダンスに当てはまる。演じられ、認められた要素の数だけのズレ(合計偏差)が基本的に許容される。

(b)プログラム構成要素

5つのプログラム構成要素(コンパルソリーダンスでは4つ)のそれぞれについて、ジャッジの「扉」は合計満点 50 点(コンパルソリーダンスでは 40 点)の 15%、すなわち合計偏差 7.5 点(コンパルソリーダンスでは 6.0 点)である。係数は考えない。

イベントレフェリーによるプログラム構成要素の採点が「扉」の向こうに位置している場合、「扉」をレフェリーの採点まで遠ざける。自動的に、最大 7.5 点(コンパルソリーダンスでは 6.0 点)という許容される合計偏差も、これに従って高まる。

(c)評価の材料

競技会の終りの要素・区分に関する印刷物が OAC の作業を可能にする。ISU 通知 1238 に指摘されているようにジャッジの名前は明かされない。

異常を完全に判別ための OAC による数学的検査は、ISU 通知 1238 の B2・g 項、k 項に説明されている手続きに従う。

シンクロナイズドスケATINGの試験競技会(ノイハテルトロフィ)における審判評価は別に行う。